

不登校傾向にある生徒の支援に関する研究

—「別室」に通う生徒の理解を中心に—

令和3年度入学

熊本大学大学院 教育学研究科

教職実践開発専攻 学校教育実践高度化コース

堀尾 光二

実践報告書要旨

近年、不登校児童生徒数は全国的にも、熊本市においても増加の一途をたどっており、過去最多を更新している状態である。日本財団が2018（平成30）年10月に実施した調査では、不登校傾向（登校することに不安や難しさを感じている）にある中学生が全中学生の10.2%にのぼるという結果を示した。こうしたことから、文部科学省は「不登校に関する調査研究協力者会議報告書」（2022年6月）の中で、学校内の居場所づくりとして「別室」を活用した支援について提言している。そこで本研究では、所属校に別室を設け、そこに通ってくる生徒との関わりを通して、生徒理解を深めていくことを目的とした。

本研究では、不登校に関する先行研究や別室を設置している学校の担当者から聞き取った学びを活かし、どのような別室にしていくべきなのか検討した。所属校で別室を開設するにあたり、生徒が安心して過ごせる居場所にするために、別室で生徒と関わる際に大事にすることを6点にまとめた。所属校の別室の一番の特徴は、生徒との「対話」を重視したことである。また、生徒の活動内容や様子、筆者自身のふりかえりを毎日記録し、省察に用いた。報告書では、3人の生徒について別室を利用するまでの経緯や別室での具体的な出来事、会話を時系列で整理し、筆者の考察を述べた。

教室か別室か、という二者択一ではなく、生徒の言葉にじっくりと耳を傾け、しっかりと受け止め、安定した土台を提供することが私たち教師の務め、それが別室での支援だと考えた。また、生徒理解を深める手がかりとして、生活習慣を把握することが非常に効果的であるということが分かった。そして「いつでも開いているよ」、「いつでも来いいよ」というような安心感のある場所が存在し、そこで対応するスタッフの時間と心のゆとりを確保することが極めて重要だと考えた。